

大山でお茶を

今や日本庭園の素晴らしさは世界的に高い評価を得るまでに至っている。特にアメリカでは静かなブームが今も続いている。庭造りも一つの芸術である。限られたスペースに何を育ていつ開花させるか。四季を計算し土壌、肥料の選択。緻密な設計が要求される。

鳥取県大山の山麓にここだけがまるで英国に来たように錯覚しそうな場所があった。「マナーハウス」という 600 m²の広い敷地に建つ小定数の宿であった。「マナーハウス」とは中世ヨーロッパの地主や貴族が建設した邸宅。マナーの語源はマンションと同一語で、カントリー・ハウスとほぼ同義である。ここは宿泊と朝食のみを提供してくれるヨーロッパで多くあるホテルスタイル。



私はここにティータイムのために立ち寄った。館内に入るや何もかもが英国調であった。古いものを大切にしている習慣はここでも生きていた。アンティーク家具、ステンドグラス、シャンデリアが落ち着いた雰囲気を醸し出してくれる。一階の奥にはいくつもの小部屋があり、沢山の家具・調度品が収集されたものを展示されており自由に見学できる。それはなかなかの見応えがあるものであった。

目を瞑り心静かに温かいコーヒーを頂いた。まだ見ぬ英国に思いを馳せながら。ロンドンに住む何人かの友の顔が浮かんでくる。いつの日かきっと会える日が来ることを。

撮影 2014 年秋

